

新しい図書館の姿を考える

図書館フォーラムから

本市では、「阿南駅周辺まちづくりビジョン」において図書館機能がコア（中核）機能の一つとして位置付けられたことから、新しい図書館を作るための基本計画策定に着手します。

これに先立ち、新しい図書館のあり方を市民の皆さまと考えていくきっかけ作りの場として、5月21日に市役所で図書館フォーラム「阿南市の新しい図書館の姿について考える」を開催し、約80人の方々にご参加いただきました。フォーラムの内容を市民の皆さまと共有するため、内容を抜粋し要旨部分をご紹介します。



福知山市立図書館児童開架

フォーラム冒頭で、表原市長が「今回は、今後の人口減少や高齢化、デジタル化を見据えながら、図書館の持つ可能性を掘り下げます。図書館を核とするまちづくりが自分事となるようにしっかりと発信をしていき、市民の皆さまにとりて、将来にわたる明るい場所を作っていきたい」とあいさつしました。

基調講演では、愛知工業大学工学部建築学科教授の中井孝幸さんに、全国のさまざまな特色のある図書館の事例を紹介していただきました。

続いて行われたパネルディスカッションでは、中井教授をコーディネーターとして、パネリストの阿南市立図書館協議会会長 坪井次郎さん、徳島市立図書館副館長 廣澤貴理子さん、表原市長が「市民と創る図書館」の実現について意見を交わしました。また、参加者の方々から事前に頂いた質問についてもパネリストの方々からコメントをいただきました。フォーラム終了後にはアンケートを行い、貴重なご意見をいただきました。



瀬戸内市民図書館オリーブの庭



一宮市立図書館シビックテラス



安城市アンフォーレントランスホール

基調講演

まちづくりと図書館

— 全国の新しい図書館と市民協働の事例 —

「場」としての図書館への 関心の高まり

公共図書館は貸出型から滞在型、そして近年は課題解決型という流れに変わってきており、「場」としての図書館への関心が高まっています。

また、近年は複合施設内に図書館が計画されることが増えています。それを機能連携型と捉え直し、そうした新しい図書館のかたちを探っていきたいと思います。

図書館における 居場所の形成

図書館を利用する方々がどのように図書館を使われているのかを考えますと、そのきっかけは子どもであり、子どもやその母親（主婦層）がよく利用します。また、本を借りるのは圧倒的に主婦層が多く、子どもを持つ母親に継続して図書館を利用してもらうには新鮮な図書が重要であると考えます。

一方、子どもと図書館を利用した父親は、後に1人で来館し館内でじっくり閲覧する傾向にあります。

また、高齢の利用者の多くは男性で、図書館を一つの居場所として利用している方が多いです。

このように同じ図

書館でもさまざまな利用の仕方があり、どの層に向けて図書館づくりを計画するかが非常に大事なことだと思っています。

また、図書館のイメージを利用者に尋ねると、「知りたいこと・調べたいことがわかる」、「新しい興味や関心を見つけられる」、「気分転換できる」といった回答が多く、実は図書館にはちょっとした非日常性が期待されています。多様な世代が使い交わることができる施設であることを、図書館には、寄りやすいというアクセシビリティが非常に重要であると考えます。

図書館でまちのみんなが つながっていく

今回は「場」としての図書館についてお話をしましたが、ただ滞在時間が長くなれば良いというわけではなく、さまざまな活動が図書館で行えることが重要であり、そのためにはゾーニングがポイントで、みんなが、いい意味での距離感を持つて使えることが大事だと考えています。

新しい施設ができたからといって、



田原市中央図書館ギャラリー（公開書庫）

何もなしに利用率が上がるわけではなく、新施設の整備と併せて周辺地域が一層繋がっていくような、きっかけとなる踏み台が必要です。

図書館は「屋根のある広場」であり、そういう意味でまちのみんなが繋がっていくことが重要であり、そのようになればいいなと思っています。

基調講演の中で紹介された図書館の内容は、図書館ホームページに掲載の「図書館フォーラム開催結果概要」をご覧ください。



愛知工業大学工学部建築学科
教授 中井 孝幸 さん

平成21年から現職。高知県新図書館等複合施設基本設計プロポーザル、新砺波市図書館整備事業設計業務プロポーザルなどの審査委員を歴任。研究テーマは「場」の概念から見た図書館の施設計画に関する研究など。

「市民と創る図書館」を語ろう

テーマ1

阿南駅周辺まちづくりにおける図書館への期待

坪井さん 昨年4月に阿南図書館が
 休館となり、休館期間中の措置とし
 て市役所2階に図書館カウンターの
 設置されています。市役所なのでさ
 まざまな展示物や行事があり、そう
 いったものを利用しながら図書が借
 りられ、また相談窓口が市民から見
 えやすい位置にきたという良い点も
 ありますが、スペースが狭く、蔵書
 を置けないため不便だと思います。

新しい図書館には、本に興味を持
 つ子どもたちを増やす機会を増やし
 てほしいです。移動図書館車を多く
 準備して巡回したり、学習の一環と



阿南市立図書館協議会会長
坪井 次郎さん



阿南市長
表原 立磨

して、子どもたちをバスで図書館に
 運び、司書が説明してくれたりすると、
 図書館の利用にもつながると思います。
廣澤さん 私からは、JR徳島駅前
 の商業施設に開館した徳島市立図書
 館の事例を紹介します。

駅前図書館として、好立地で利便
 性が高く、交流の拠点となることへの
 期待が非常に高かった。そこで、地
 域に開かれた図書館をめざし、立地
 の特性を生かした事業、施設の有効
 活用、利用が困難な方へのサービス、
 異分野との連携などの取組を進めま
 した。また、図書館とそのサービ
 スや機能を周知するため積極的な情報
 発信を心掛けた。
 さまざまな関係機関や団体、個人

中井さん バリアフリーは当然で、
 現在さらさら障がい者に限らず誰も
 が使いやすいユニバーサルデザインが
 掲げられ、対象を限定せず選択肢を
 増やす方向に向かっていきます。
 まだ抵抗感のある方も多い電子書
 籍もそうですし、小さな館を残すこ
 うのも、ある意味利用の選択を広
 げるという面につながっていると思
 います。



徳島市立図書館副館長
廣澤 貴理子さん

廣澤さん 市民協働の例として、徳
 島市立図書館では開館当時から10年
 間、おはなし会を毎日2回開催して
 います。スタッフだけでは対応しきれ
 ないことから、読み聞かせボランティア
 ア8団体に協力いただいています。
 また、赤ちゃん向けのおはなし会
 やブックスタートなどの子育て支援
 もあわせて行っています。
表原市長 市民の皆さまからの事前
 の要望として最も多かったのは図書
 館の早期完成でしたが、それに次ぎ、
 子育て機能、サードプレイスとして
 の機能、そして学習スペースという
 3つでした。寄せられた要望全てに
 フルスベックで応えるのは予算的にも
 持続可能性においても難しいですが、

に協力をいただきながら事業を展開
 し、同時に人材育成にも努めました。
 やはり、私たち職員自身も力を付け、
 協力してくれる相手とウインウイン
 の関係を築いていかなければならない
 と感じました。
表原市長 本市の今抱えている課題
 が何であるのか、それをしっかりと深
 掘りした上で、その施設を作ること
 によって、どういうまちの将来像を
 めざすのかを明確にしなければなら
 ないと思います。また、将来を見通
 した上で、お金も時間も限られた経
 営資源であり、どこに対しても
 と力を入れていくのかを明確にする
 必要があります。
 しかし、高齢化やデジタル化がさ
 らに進んだ将来、そのとき市民が何
 を求めるのかはまだ想像が付きませ
 ぬ。だから将来的にサービスの中身を変
 えることができる余白の部分を残し
 ていくこともポイントになると思
 います。
中井さん 余白という話に関して、
 講演の事例で挙げました認知症カフェ
 も、図書館ではなくボランティアによ
 る事業です。市民と一緒に活動する
 ための門戸を広げるとともに、そいつ
 らが活動が可能なゆとりを計画してお
 くことも重要です。

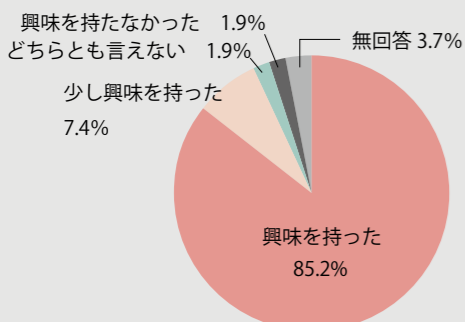
大切なのは限られた資源を戦略的に
 配分することであり、そしてその二つ
 一つの機能が有機的に連携するよう
 いかにデザインするかであると思
 います。
 9月18日に夢ホール(文化会館)で、
 阿南駅前のまちづくりを考えるシン
 ポジウムを開催します。図書館だけ
 ではない、駅の東と西、民間の施設
 も含めた、新たな人の流れを生み出
 すまちづくりについて、しっかりと市
 民の皆さまにお伝えする機会を設け
 ます。

問い合わせ

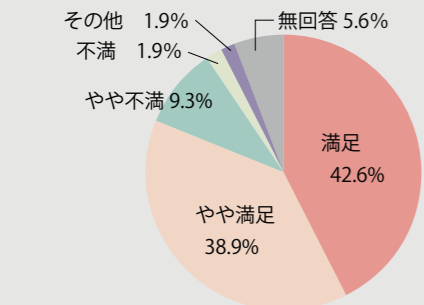
那賀川図書館 ☎ 42-3111

アンケート集計結果

新しい図書館計画・運営への興味・関心



今回のフォーラムの満足度



主な自由意見

- ・図書館が駅周辺まちづくりの中に位置付けられたことに安心し、うれしく思った。
- ・阿南市の姿を考えつつできるだけ早く建設してほしい。図書館は「文化」の姿である。
- ・夢と希望がわく図書館に阿南市の未来が見えるようでうれしい。
- ・どの年代の人もが集いやすい敷居の低い施設になるとよい。
- ・孫たちが生き生きと活用でき、大人になってもずっと活動できるステキな場となることを願う。
- ・市長の開発に余白を残すという発言に共感した。その時代に合わせて変えていけるような施設になってほしい。
- ・大人だけでなく若者や子どもの意見も直接収集して図書館や施設づくりに反映してほしい。
- ・音のゾーニングは重要。声を出してもいいエリアがあると子連れでも気兼ねなく行きやすい。

テーマ2

市民と創る図書館の実現に向けて

坪井さん 平成6年に那賀川図書館
 が作られたが、町民が望み、町民が
 動き、町民の意見を取り入れて整備
 された図書館でした。開館後も図書
 館の庭のお世話をする美化ボランテ
 アやピアノ演奏や読み聞かせのボラ
 ティアなどが今なお引き継がれて
 います。市民自らが情報を得て共有
 し、それを今後に生かすことが大事で、
 そうすると未永く市民に親しまれ愛
 される図書館になっていくと思います。
 また、新しい図書館には駐車場
 に広いスペースが必要であり、また、
 大活字本の収集や見やすい掲示など、
 障がい者の方々に向けたサービスも
 非常に大事ではないかと思
 います。



愛知工業大学工学部教授
中井 孝幸さん



広報番組をご覧ください

広報あなん動画版「新しい図書館の姿を考えるー図書館フォーラムからー」をケーブルテレビ11ch(ケーブルテレビあなん、県南てれび)やYouTube、市ホームページで放映しています。ぜひ、ご覧ください。



図書館広報課 ☎22-1110